

# 細菌性膣症に対する ecological treatment の効果

■ロマリンドクリニック 院長 富永 國比古 先生  
■日本性感染症学会誌 第18巻 第2号 2007 p67



富永國比古先生

## 【目的】

細菌性膣症に対する治療法として、1) クロマイ膣錠、2) 乳酸菌生成エキス (LC16)、3) ビオスリー (乳酸菌製剤) の経膣投与、および 4) 活性炭による膣内洗浄の 4 種の治療効果を比較検討した。

## 【対象と方法】

外来患者の中から、1. 灰色帯下、2. 膣内 pH5 以上、3. アミン臭の検出、4. Clue cell の検出 (上皮細胞の 20% 以上) の症状の内 3 項目が陽性であった者 130 名を対象として治療を試みた。被験者は、ランダムに 4 つのグループに分け、それぞれ、1) (33 名)、2) (33 名)、3) (30 名) 7 日間経膣投与、さらに、4) (34 名) の治療を 7 日間継続施行した。悪臭や帯下の程度の評価方法としては VAS(Visual Analog Scale) を用いて、外来で被験者に自ら評価させた。また、初診時と治療終了時に膣内 pH を測定した。

## 【結果】

① 4 種類の治療法のいずれにおいても治療効果が認められた。② 帯下量の減少については、1 > 2 > 4 > 3 の順で治療効果があった (Fig.1, 各種治療間の効果の統計的有意差は、Tukey 多重比較で 1vs.3、2vs.3、4vs.3、いずれも  $p < 0.001$ )。

悪臭に関しては、2 > 1 > 4 > 3 の順で治療効果があった (Fig.2, 2vs.4: $p = 0.007$ , 2vs.3: $p < 0.001$ , 1vs.3: $p = 0.003$ ) であった。③ 膣内 pH に関しては、治療前後でクロマイ膣錠は統計的有意差は認められなかったが、他の治療法では、有意差が認められた (Fig.3)。

## 【考察】

臨床症状の改善、膣内酸性度の回復を治療のエンドポイントとした場合、LC16、ビオスリーなどのプロバイオテックス療法、および、活性炭による膣内洗浄法など、いわゆる ecological treatment は、クロマイ膣錠による治療に比べて、より常在乳酸桿菌に対して、保護・育成的な治療であることが分かった。今後、さらに治療の最適化を研究して行きたい。



乳酸菌生成エキス (LC16)

Fig.1. 帯下量 (おりもの) の変化

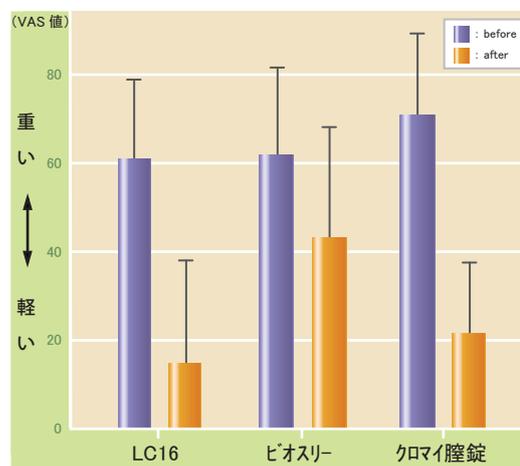


Fig.2. においの変化

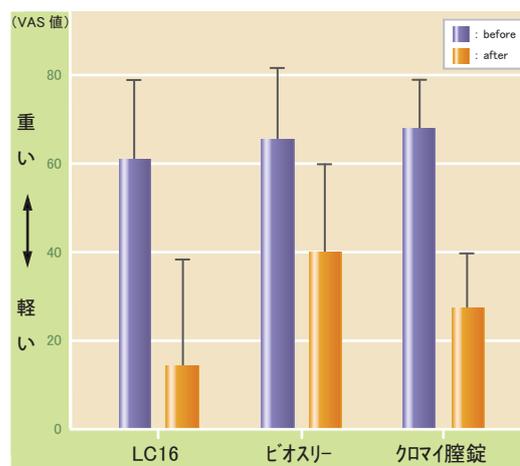


Fig.3. 膣内 pH の変化

